

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援ゆめ		
○保護者評価実施期間	R8年 3月 1日		R8年 3月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	R8年 3月 1日		R8年 3月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広いので、学習室、訓練室、プレイルーム、スヌーズレン室と分かれており、個別、集団療育がしやすい。	この部屋では何をするのか、子供達が自ら理解し、自主的に学習、訓練に取り組めるよう心掛けている。学習は、個々の能力に応じて対応し、特に苦手な学習に対して意欲が持てるように工夫している。	引き続き、子供達が自主的に行動できるように、職員も工夫していき、職員も自己研鑽の為、内部研修も行い、外部研修にも参加していく。
2	職員がベテランの保育士で、職員間の連携もとれており、子供一人一人について、どうすればより良い療育が出来るか、毎日、話し合いをしている。	子供一人一人と向き合い、その子供に合った療育を日々模索し行っている。職員全員が意見を出し合い、同じ方向を向き支援を行っている。	引き続き、子供達と向き合い、職員間で意見を出し合い、その子にとってより良い支援を模索していく。
3	子供だけではなく、保護者にもしっかり寄り添い、悩みや不安を共有し、助言を行っている。保護者の話を十分時間を取り、傾聴している。	全職員が個々の子供の状況を把握しているので、全職員、保護者への対応が可能。面談には、十分時間を取っている。	今後も、保護者にしっかり寄り添い、精神面で少しでも安心できるようホロー出来ればと思っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	昨年4月に開所。地区の民生委員には挨拶に行ったが、その後は行けてないので、地域との繋がりは希薄だと思う。	昨年、4月に開所で、今まで事業所内のことでいっぱいになっており、地域に目が向けていないのが現状。	再度、民生委員には挨拶に伺い、地域の年間の行事等の情報を貰い、参加出来る行事があれば参加していく。
2	保護者間の交流、保護者に向けた発信が出来ていない。	個々の保護者に対しての対応はしていたが、日々の業務で保護者全体に対して、目を向けられていない。	1年が経過し、子供の数も増えたので、保護者に向けてアンケート調査を行い、要望が多いようであれば、保護者向けの研修、交流会等を開催したいと考えている。
3			